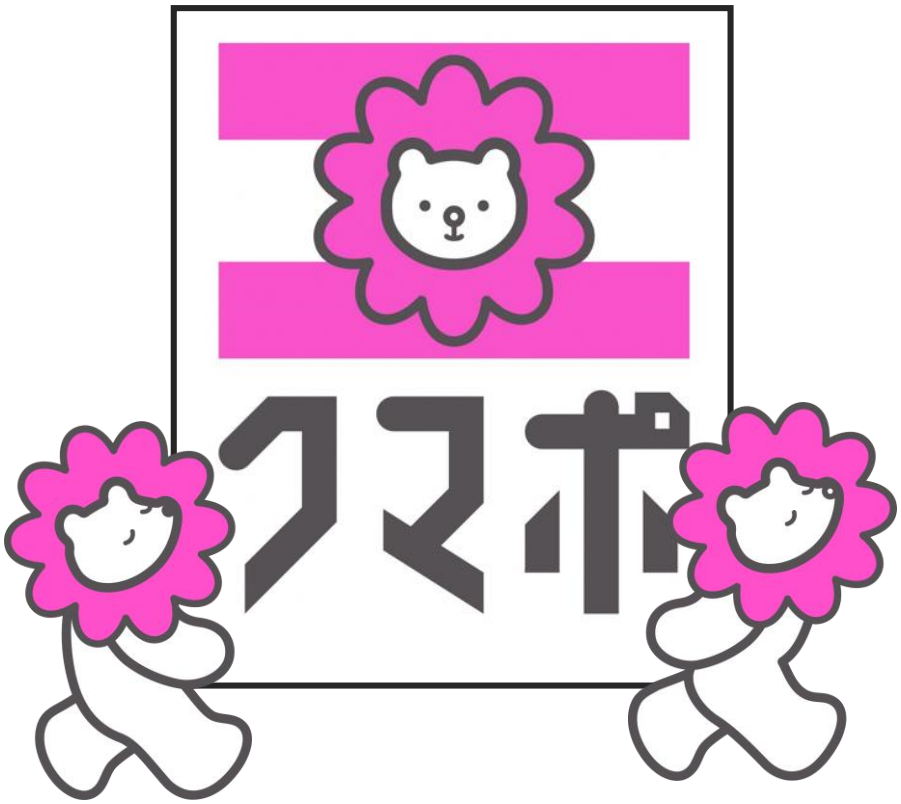
熊谷市コミュニティポイント

「クマポ」について



≪　熊谷スマートシティとは≫

　熊谷市は、「やさしい未来発見都市 熊谷」というテーマのもと、デジタル技術を活用した、誰もが自律的に幸せを追い求めることのできる未来を目指しています。
　具体的には、スマートフォンなどを利用した新しいサービスの提供や、気象データ・人流データやスマートフォンアプリの利用データなどを同意の上で収集・分析し、市民サービスの向上を図っています。
　こうしたサービスは、LINEからアクセスできる「都市ポータルアプリ「クマぶら」」を入口として利用可能です。

●利用可能なサービスの例
- 地域の情報やクーポン
- スマートフォンを使った様々なイベント
- クマPAY（地域電子マネー）
- クマポ（コミュニティポイント）
- コミュニティバスのスマホ回数券

≪「クマポ」の概要≫

「クマポ」とは？

「クマポ」は、ボランティアや地域活動等の「まちを元気にする」活動の参加者に市が付与するポイントです。

「クマポ」は「クマPAY」と同じLINE上のシステムで運用します。

「クマPAY」が現金をチャージして、市内の店舗等で日本円と同じ価値を持つ、QRコード決済の仕組みであることに対し、「クマポ」は換金できません。

クマポは市内で様々な活動をする方の間で循環するポイントです。

ためた「クマポ」は市や協力団体の提供するサービスや記念品と交換できます。また利用者間でもらったり、あげたりすることもできます。「クマポ」の循環で人のつながりをつくり、共助やコミュニティ活動の活性化を図ります。

「クマポ」でできること



≪クマポの循環と地域の関わり≫

【誕生】

公共性のある活動を行う団体等からの行事参加者等の配布

個人のログインボーナス

公共性のある団体や個人の熊谷市のデータ活用まちづくりへの参画拡大。

非換金（非買い物型）地域通貨の「わたす」機能が生む循環

貢献との交換により双方の満足度向上。



（周辺の輪はボランティアを侵食するのではなく周辺のコミュニティ活動を活性化するイメージ）

【再循環】

【目指す姿】循環型相互扶助の範囲内（提供クマポの量とサービス内容が比例しない感謝の意としての使い方が原則）において、各団体が体験との交換・寄付の受付などを工夫し、再循環へ。

市の用意する体験との交換（記念品等を含む）、懸賞への応募等の形で市が回収し、公共性のある活動を行う団体等へ再循環。

ポイント収集の動機の強化。

時効により消滅。

活用の動機の強化。

【デジタルの強み１】

評価の仕組み、ゲーム性等による循環加速

（実装当初は円滑な循環のモデルコースを例示する必要あり）

【デジタルの強み２】

Webマッチングによる循環の円滑化

≪クマポの進捗状況について（令和6年度）≫

4月 → 5月 → 6月 → 7月 → 8月 → 9月

- 3/29～クマポ運用開始
- 4/18運用開始イベント
- 6/14クマポワークショップ

（各月1日時点）

利用者数	1,181	2,198	3,040	3,989	4,309
総流通数	120,250	252,050	392,550	579,330	682,830

※総流通数：市民や協力団体が保有しているクマポの数。

10月 → 11月 → 12月 → 1月 → 2月 → 3月

- 10/23～クマポプレイス開始
- 10/23クマポプレイス開始イベント
- 12/5～12/26 抽選会
- 12/6クマポ説明会
- 2/14クマポ意見交換会
- 2/19クマポ説明会
- 1/17クマポ説明会
- 11/1～11/28クマPAY20%還元キャンペーン

4,754	6,240	12,902	14,425	15,183	
815,790	993,650	1,724,300	2,045,650	2,175,090	

≪クマポをためる≫

イベント会場等に設置された二次元コードをスマートフォンで読み取ることで、「クマポ」を受け取る。

たまる事例

・初回ログイン感謝ポイント　　100クマポ／人
・ボランティア活動　　活動時間に応じて100～500／回
・イベント参加　　50クマポ／回
　（付与団体登録数　12団体）
　（付与イベント等数　149イベント（予定含む））
・市のアンケートへの回答　　100クマポ／回
・ゆうゆうバス降車データ登録　　10クマポ／回
など



周知、説明等

・クマポ、クマポプレイスの運用開始イベント
・利用方法等の説明会開催
・クマポ、クマポプレイスのワークショップ開催
・イベント会場でのクマポ紹介ブースの設置

≪クマポをつかう≫

ためた「クマポ」を使い、市や協力団体の提供するサービスや記念品を受け取る。

市が用意した記念品



・キーホルダー（100クマポ/個）　・タオル（500クマポ/枚）
・体験サービス（5,000クマポ/1体験）　など

協力団体が提供するサービス　（協力団体（店舗）数　10店舗）



抽選会（ためたクマポを使って応募できる抽選会）

景品は、クマポ利用者に市の特産品をPRし、
抽選企画をきっかけに店舗の利用につながるよう、
主に市のふるさと納税の返礼品から選択した。

景品　　8種類　40個
当選者数　　40人
応募総数　　463件（応募者数　383人）
応募により「つかわれた」クマポ総数
　　125,900クマポ

≪クマポをわたす①≫

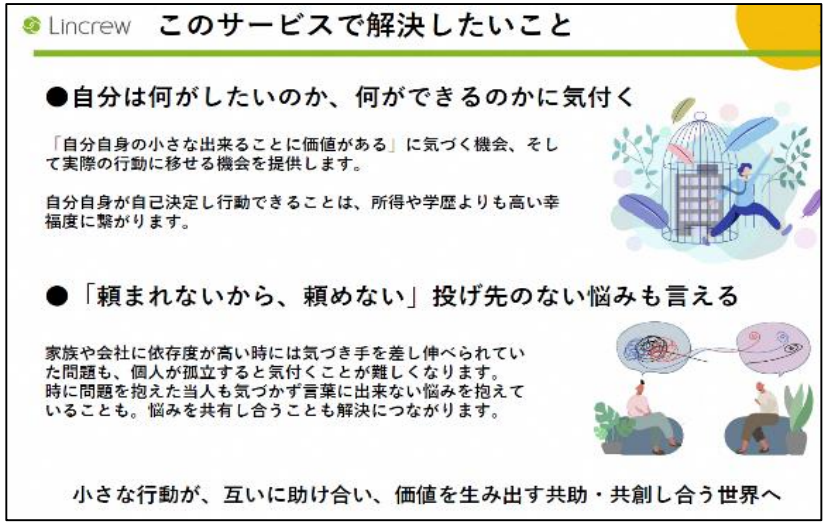
「クマポ」は、利用者間でもらったり、あげたりでき、感謝や応援の気持ちを伝える手段としての利用もできる。

クマポプレイスの運用　（利用者　54人　投稿数　6投稿（2月1日時点））

クマポの利用者が自身の「できる」こと、「もとめる」ことを投稿できるようにすることにより、そこでつながった利用者間の新たなコミュニティの構築、既存コミュニティの拡大など、地域コミュニティの活性化につなげる。また、クマポの利用及び循環の促進にもつながる。

クマポプレイスはWebサービス「Lincrew（リンクル）」を利用。





≪クマポをわたす②≫

「クマポ」は、もらったり、あげたりでき、利用者間で感謝や応援の気持ちを伝える手段としての利用もできる。

クマポアイデア集の作成

クマポ、クマポプレイスの活用アイデア集を作成し、市ホームページ等で公開。

アイデアは、コミュニティポイント活用会議メンバー、市職員、ワークショップ参加者から募集。

